

私の存在意義 第2弾

～ついに日本一へ～

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年
佐伯響子

※佐伯響子さんは昨年度に続き、2年連続の受賞となります。

初めに

2020年の12月12日、専修大学神田キャンパスで行われた育友会奨励賞の表彰式の場にいた私は、多くの方々から「おめでとう」の言葉とともに「次は日本一だね」「絶対取れるよ」「楽しみにしているからね」といったエールをいただきました。

そして2021年、それらのエールと自身の悔しさを糧に「ドラコン日本一」へ再びチャレンジ。その挑戦についてお伝えしたいと思います。

1. ドラコンとは

ゴルフコンペなどに参加すると必ずといっていいほど「ドラコン賞」なるものがあるので知っている人も多いと思いますが、簡単にいうと「遠くに飛ばすことを競う競技」です。

日本にはドラコンの団体がいくつかありますが、私が今回挑戦した大会はLDJという団体が主催したもので、2分半に6球打ち最低飛距離は200ヤード、決められたグリッド(測定エリア)内に飛んだボールのうち最長飛距離のものを計測するというルールで行われました。

大会は全国各地で行われる予選会から始まります。今年から世界大会がプロとアマチュア部門で分かれることから、日本でも決勝大会はプロとアマチュアに分かれますが、予選は一緒に戦います。各予選会は1位30ポイント、2位20ポイント、3位15ポイント…といったポイント制でポイントの多い上位9名が日本大会に出場できる仕組みになっています。

今大会のアマチュア部門の優勝者にはトロフィーと共に9月10日～19日に米国シカゴにあるCog hills golf & country clubで行われる世界選手権の出場権も授与されます。

2. 大会に備えての取り組み

最初に取り組んだのは、肉体改造です。以前も走ったり、筋トレをしたりしていましたが、全てが自己流でした。ですから今年はプロに教を乞おうとパーソナルトレーニングに申し込みました。どうやら私の鍛え方は間違いだらけだったようで、毎日が筋肉痛でした。ついでに一人暮らしの暴飲暴食も改め、体にいいものなる



だけ自炊するよう心掛けました。すると、3カ月を過ぎた頃からでしょうか、筋肉痛も徐々に収まり、体の軸もしっかりしてきたのです。

肉体改造と並行してスイングフォームにも着目。専修大学のネットワーク情報学部で学んだ知識をフル活用して、自分のスイングをあらゆる角度から取め、分析しました。ドラコンプロの方々のフォームとも比較したり、蛇足ではありますが、ホームラン量産マシンの大谷翔平選手のバットスイングも参考にしてみました。

道具にもこだわりました。ドラコンといえばドライバーです。「どんなゴルファーでも10～15ヤードは飛距離アップ」という謳い文句でテーラーメイド・ピン・ダンロップ・キャロウェイなどいろんなメーカーが毎年新しい「飛ぶ」ドライバーを発売していますが、性能がアップしている新作を選べば間違いないかというところ、そうでもないところがクラブ選びの難しいところです。いろんなゴルフショップに足を運び、フィッターの人のアドバイスを受け、試打を繰り返し、最終的にヘッドスピード・握力・フォーム、懐事情を鑑みてタイトリスト TSi3 45.75インチのドライバーを購入しました。

3. ドラコン日本一決定戦

万全の態勢を整えた私は2021年3月6日「2021 LOWMEL Presents LDJ」の予選会に出場しました。結果は1位30ポイントを稼ぎ、幸先の良いスタートを切りました。しかし就職活動やコロナ禍での緊急事態宣言などでその後予選会に出場することが叶わずハラハラしましたが、辛くも9位に滑り込み、8月7日から始まる日本大会の出場権を獲得しました。

8月7日、静岡県裾野市にある東名カントリークラブが今年の日本大会の舞台です。四季折々の富士山を堪能できる風光明媚な場所なのですが緊張でそれどころではありません。何やら訳もわからぬまま、6球打ち308ヤードで予選2位通過で決勝へ。

8月9日、決勝。台風9号の影響で強風が吹き荒れる中の開催になりました。今日は先日の1・2位と敗者復活の勝者、そして予選会のポイント1位のシード選手、計4名の勝負です。まずは1位の増田選手と2位の私との対戦。小雨が降っていて右からのアゲインストの風

が吹いています。2日目のせい少し緊張もほぐれており、1球1球をしっかり考えながら打つ余裕もありました。増田選手がグリッドをとらえられないため記録が出せず苦戦している中、私は6球中5球をグリッドに入れることができたのが勝因となりました。結果は増田選手が269ヤード、私が307ヤードで最終決勝へ。

さて、ついに「アマチュア日本一」の座が見えてきました。ここが正念場。しかし風がさらに勢いを増して、状況としては悪くなる一方です。そんな中「第一打席 佐伯響子選手」とアナウンスの声。スモークのたかれた入場門をくぐると観客の人たちから拍手と声援が送られてきます。少し照れくさい思いをしながら礼をしてレッドカーペットをかけぬけ、打席につきました。

「グッドラック フェアウェイ」の掛け声と共に最後の2分半がスタート。2分半という時間は単純に計算すると1球に25秒の時間配分になります。余裕があるように感じますが、緊張して手が震えるとティーにボールを乗せるだけでも難しく、時間ぎりぎりになってきます。ましてやこの日は打つたびに水滴や草がクラブフェースにつくので、毎回タオルで拭き取る動作が加わります。そして右斜め前から容赦なく吹いてくる風。私はこのような時にこそ焦りは禁物と考え、6球全て打つことよりも1球1球丁寧に打つことを心掛けました。その作戦が功を奏したのか、ひどく曲がったり、グリッドから外れる球もなく6球を打ち終わりました。特に3打目の下から上に真っ直ぐ伸びていく球は今年1番のベストショットだったと思います。打ち終わってから1分ほどでしょうか、計測も終わりいよいよ発表です。「細田選手255ヤード、佐伯選手300ヤード。アマチュアウイメンズディビジョン優勝は佐伯響子選手です」。

4. 私の存在意義

4年前の私は専修大学に入学したものの履修や授業の違いに戸惑い、一人暮らしの不便さや寂しさに涙し、なんとか入部したゴルフ部では実力差に打ちのめされていました。自分の存在価値を見失い、自分が無価値な人間だと思い込んでいたのです。特に部活ではなかなか上達せずスコアも伸びないため、仲間との溝がどんどん深まっていると思う気持ちと、ゴルフが大好きでゴルフ部の一員としてみんなと肩を並べたいと思う気持ちがぶつかり合っただけで思い悩む日が続きました。そんな中ゴルフというものを違う角度からとらえた競技である「ドラコン」に出会ったこと、それが私の転機だったのだと思います。

ドラコンの「思い切り振って思いっきり遠くへ飛ばす」という単純明快な楽しさにはまり、救われたのです。そのおかげで少し自信が付き前向きになれた私は、部活でも自分なりに人の役に立ちたいと考えるようになり、人の嫌がるようなことや雑務を率先して行うよう心掛け

た結果、何と今やゴルフ部の副キャプテンを任されています。

就職活動でも、それは活かされました。情報収集のため大学やOBの方々に話を伺うのはもちろんのこと、会社訪問やセミナーがあると聞けば、積極的に参加するなど、どんなことにも、まず行動を起こすようになりました。何かに取り組むこと・行動することが億劫ではなくなり、逆にそれに伴って広がる世界や新たな出会いに喜びすら感じるようになったのです。おかげで念願のゴルフ関連会社への就職も決まりました。

そして今年、大好きなドラコンで「日本一」という肩書きを手に入れたことで「自分の中で満足する結果」と「周りから評価されたこと」とがうまく融合して、私にも存在意義があると自信が持てるようになりました。今回、固定観念に囚われず新しい世界に挑戦した行動力は、私にとって大学4年間で得た最も素晴らしいことであり、これから社会人になって迎えるであろう様々な困難を乗り越える力になると思います。

5. 終わりに

専修大学に入学して4年、苦しい・悲しい・寂しい・楽しい・嬉しい・面白い等、いろんなことを経験しました。今まで生きてきた22年のうちのたった5分の1以下の期間でしたが、私が最も成長できたひとときだったと思います。もちろん、私1人の力で成長したわけではなく、私の1番の理解者である両親や私の応援団長である祖父母をはじめ、友人、部活の仲間、先生方など、私を取り巻く全ての人のおかげだと思っています。特にコロナ禍の中、育友会奨励賞の企画を続けてくださった育友会の皆様方には、励まされ、背中を押されて、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

さて、今回コロナ禍のため世界大会出場は辞退しましたが、次なる目標は「アマチュア世界一」。社会人になっても立ち止まることなく、さらなる高みを目指します。有言実行あるのみです。



↑ 2021年8月9日、東名カントリークラブで開催された LOWMEL Presents LDJにてドラコン日本一に